

スロ～なニュースレター



協会活動 ● いろいろ報告

天習+せ学【環境「緑育」活動】

ドングリブプロジェクト(第10弾)



「ドングリブプロジェクト」は、6年目となりました。
 今回のドングリブプロジェクト(第10弾)は平成26年10月25日(日)に開催しました。松阪子ども連合会の児童たち(約30名)と引率の方(8名)が参加してくれました。
 ドングリは10月下旬になると、実が熟し落果してきます。それをすぐに播種すると、ドングリブの木がでます。
 今回は、ドングリブの木の中で、クヌギ、コナラ、マテバシイ

のドングリブを拾って畑に播種しました。子供たちは、拾ってきたドングリブを芽が出て大きく育ってくれることを願いながら、それぞれの畝に種まきました。
 ドングリの中には、食べられるものがあります。その代表的なものとして、マテバシイの実をフライパンで炒ってみるなどで試食しました。香ばしく旨味があり、なかなか良い味を醸し出し、たいへん好評でした。



ドングリブプロジェクト[植樹](第11弾)

平成21年秋から始めた「ドングリブプロジェクト」は環境創造活動イベントとして定着しつつあります。平成27年2月23日(月)には、ドングリブプロジェクト(第11弾)として、ドングリブの樹の植樹を行いました。苗の樹種はドングリブプロジェクトで採種・育苗・管理を学習してきた「コナラ」です。
 植樹は、三重県立飯南高等学校に協力していただきました。当該高校の授業の一環として、郷土・環境系列の辻先生、築山先生のご指導の下、2年生23名が植樹しました。
 コナラは、シイタケの原木として利用されている木で、シイタケ栽培しやすく、よいキノコが生産

でき、またドングリブの木として代表的な樹木です。1.2mほどに育ったコナラの苗木を、生徒たちは学校林の植樹場所に鍬やショベルで植え穴を掘って1本ずつ植えました。植えた苗木には、割り竹で支柱をしました。
 参加してくれた生徒たちは自分たちの思いを込めて支柱用の添え竹に自分の植樹記念になる思いの言葉や日付を書き込んでいました。2月とは思えないような暖かい陽気と生徒の思いを酌んで、苗木もしっかりと根づいてくれると思います。



天習+せ学【環境「緑育」活動】

「農業塾」 庭園視察 研修会に行きました。

平成27年2月7日(土)、今まで続いていた厳寒の日々とは打って変わって穏やかな晴天に恵まれ、最良の視察研修日和になりました。今回は今までの栽培や1月の講座で学んだ「庭園」の知識を視察によってさらに深めようとする目的を持った研修会でした。

まず、三重大学農場へ行きました。そこでは教授の奥田均先生から農場の概要について説明を受けた後、奥田先生のご専門である果樹について農場を視察しながら説明を受けました。「庭園」については湖東三山を視察しました。それぞれが由緒ある庭園を持つ寺院として夙に有名です。西明寺の庭園は池泉回遊式蓬莱庭園、金剛輪寺と百済寺は池泉回遊・鑑賞式庭園でした。どの庭園も斜面に石や刈り込みを配し、苔むした歴史を感じさせる庭園でした。また、寺院そのものも国宝や国の重要文化財として指定され維持されており、私たちの信仰と観光を兼ねた歴史的建造物としての重要な価値を感じることができました。



天習+せ学【環境「緑育」活動】

平成26年12月29日(月) 第7回 リユース広場を開催しました。

12月29日(月)10～15時まで農家市場前のテントで、ベルファーム迎春準備イベントに併せて開催しました。お天気に恵まれましたが、年末でご多忙な方が多かったのか、いつもより利用者は少なめでしたが、それでも「お正月用」に食器類や雑貨品・台所用品などをお持ち帰りいただきました。昨年同様、農業塾からは、お正月用の白菜・水菜などのみずみずしい葉物をはじめ、赤大根・聖護院大根・人参・サツマイモ・蕪・里芋などの立派な根菜類・大豆や黒豆など、重宝なお野菜を出品していただきました。両手にいっぱい持って帰られた方は、きっと美味しいおせち料理ができたことでしょう。
 今回も開催日にあわせて寄付品をお持ちいただいた方や、お忙しい時期にも関わらず協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。まだお越しいただいていない会員様も、是非一度お出かけ下されば幸いです。(近田)



平成26年12月22日(月)

三重県食育推進会議で活動紹介

12月22日に三重県庁講堂において「三重県食育会議」が開催され、協会の理事であり、ベルファーム農家市場生産者会「ベル農会」会長の沼田芳久さんにパネラーとして活動紹介をお願いしました。

我々の取り組みは素材として「大豆」をテーマにして、播種から草取り枝豆収穫、そして大豆収穫、その後大豆を使った納豆、豆腐、味噌作りと一連の取り組みを、地域の子供達に体験してもらう内容です。延べにして約300名の親子が参加しています。

基本は人気の収穫や料理体験だけの参加はNGで、最初に登録頂いた方に約半年の活動全てに参加を課しているところでしょうか。自分で育てた大豆が生長する過程を学び、日頃食べている加工品がどのようにして作られているかを知り、獲れたてをその場で茹でた枝豆がどんなに美味しいのか、感動を知ってほしいと言うのが狙いです。

結果として食べ物の大切さ、生産者への感謝の気持ち、地産地消って素晴らしいんだ!と言うことが理解してもらえれば成功です。この取り組みは農水省から「教育ファーム農場」として認定を受け、今年で二年目となります。27年度は「さつま芋」を予定しています。

子育ては家庭や学校が基本にあると認識していますが、NPOや企業がそれぞれ得意とする分野で子育てにお手伝いが出来れば、「子どもは地域で育てる」と言う意識が根付くのではないかと考えています。(岩森)



地産地食・平凡人生

報告2014年度後後半のスローな談話会

今年の後半もベルファームでは農家市場に出荷されている農家さんのお話が聞けました。佐久間さんはブドウの根域制限栽培という新しい技術に挑戦されています。池添さんは耕さない、肥を入れない、農薬をまかないという自然の力に依存したまさに土にやさしい農を実践されています。仲田さんは三世代家族に嫁いでさまざまな苦勞を重ねながらも観光イチゴに挑戦し、真空鍋を使った素晴らしいイチゴジャム造りを率先してやってこられました。

ネオポリスでは世話役が地域のコミュニティクラブに参加しかけたこともあり、地域コミュニティや地域で寄り添ってできるだけ元気で人生を生ききるための話題が増えました。特にネオポリスでは参加者の年齢が上昇していることはありますが、27年には孫子の世代とのかかわりも可能な竹炭プロジェクトを充実させていきたいと考えています。コープみえから頂いた環境寄付金が活かせる局面です。



農家女性のイチゴ経営への挑戦(2月の談話会)

「継続は力なり」を信じて、偶数月は松阪農業公園ベルファームで、奇数月は津の豊里ネオポリスで談話会を続けています。

平成26年10月から27年2月までの話題提供者とテーマ、参加人数は表の通りです。
話題提供者 テーマ

10/24(ベル)	佐久間栄造	農への思いとぶどう作り
11/26(ネオ)	加藤孝生	地域コミュニティの設立と継続についての課題
12/26(ベル)	池添友一	自然農法とベルファームオーガニックフェスタ
1/27(ネオ)	大原興太郎	27年にかける思い
2/24(ベル)	仲田美代子	農家の嫁としてイチゴ経営に取り組んで
3/17(ネオ)	右田・大原・甲田	竹林整備・竹炭プロジェクトについて

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)

また、昨年お話を聞いたピーター・D・ペーダーゼン氏を再度お呼びして環境づくり、社会創りの話を深めていきたいと思っています。会員さんの参加をお待ちしています。

5月23日(土) 14~17時 アスト津4F

基調講演: ピーター・D・ペーダーゼン

「今、必要な環境問題、新しい社会創りへのアプローチとは? ~「食」と「エネルギー」の環境大国デンマークの経験に学ぶ~」
(仮題)

参加費: 無料

◇ピーター氏は1967年デンマーク生まれ、日本在住23年。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。リーダーシップ・アカデミー「TACL」代表。株式会社イースクエア共同創業者などをされています。